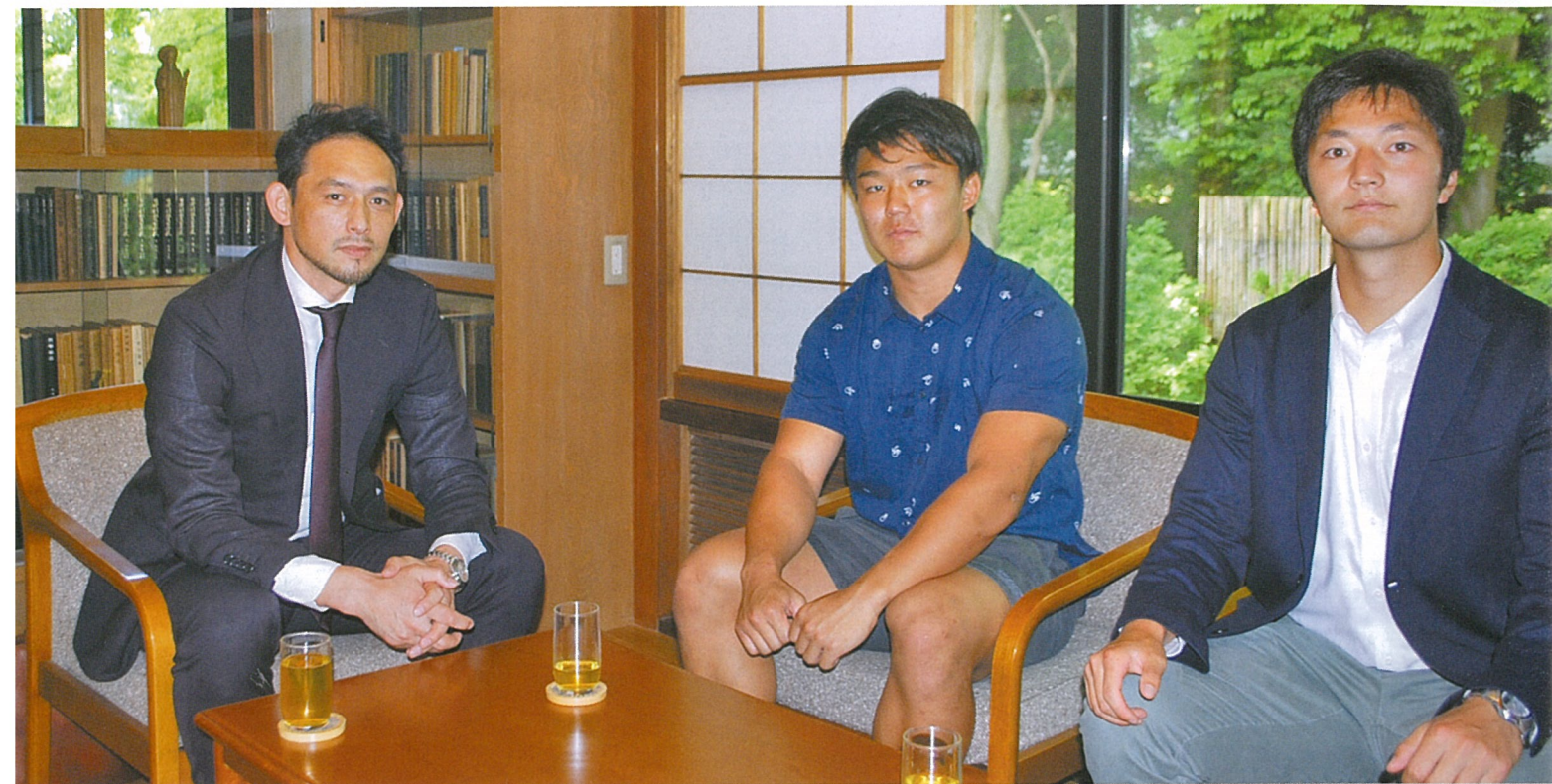




左から川合さん、山本さん、石川さん 小原記念館にて

ラグビーは楽しい

玉川学園創立とともに誕生したラグビー部も創部90周年を迎えました。そして今年は日本でワールドカップが開催されます。そこで元日本代表の川合レオさんと2018年に東大ラグビー部主将を務めた石川悠太さん、慶応義塾大学ラグビー部に所属している山本凱さんにお集まりいただきました。

ラグビーとの出会い

川合 僕の時は中学部にラグビー部ができたばかりだったので、毎日放課後、ラグビーをしているというより鬼ごっこをしている感じでした。

石川 小学部4年からラグビー部に入部しました。ラグビーという競技はOne for all, All for oneの精神を学べます。これは玉川のモットー『人生の最も苦しい、いやな、辛い、損な場面を、



真先に微笑をもって担当せよ』と同じです。自己犠牲精神というのをラグビーですごく学んでいるかと思っています。

山本 小学部1年のときにラグビーに出会い、3年生から本格的に始めました。最初はサッカーをやっていて、授業で初めてラグビーを経験してこんなに自由に動き回れる楽しいスポーツなんだと思いました。ラグビー部に入ってすごく楽しかったです。きついな、行きたくないと思ったことはないです。ラグビーは自分で考えて判断できる自由さがあると思います。

川合 試合中は監督が指示を出さない。キャプテンとフィールドにいるプレイヤーで問題を解決していくというのがラグビーの魅力の一つです。それができるように日頃から指導するというのが優秀な指導者のアプローチだと思います。ラグビーをつき抜けた先の人生に活かせるようなライフスキルを学ぶこともラグビーの特徴だと思います。



山本君はトップリーグにいくのでしょうか？ U-20に参加してみようと思った？

山本 はじき飛ばせなかったです。スピードが違いますね。今回の遠征ではオーストラリア、ニュージーランド、フィジーと対戦したのですが、試合中ずーっとしゃべっていたり、コミュニケーションレベルがすごかったです。足の速さだけではなくて一瞬加速するスピードだったり、コンタクトするスピードだったり、裏に抜けてサポートするときにみんなであがるスピードだったり、全然ちがうなと思いました。今後そこを生かしていこうかなと思いました。

2019年ワールドカップ

川合 ラグビー協会で仕事をしているので、W杯が終わった後が気になります。競技人口が増えてほしいし、ラグビーが今まで以上に繁栄していったらいいので、今からしっかり地味なことを整えておかないといけないなと思っています。開催地で見られるのは一生に一度と言われているのでぜひ、見てほしい。

石川 ルールも難解で知らない人が見るのは難しいと思いますが、分かりやすいルールブックも出始めています。僕自身は身の回りにラグビーを広めていくくらいしかできないですね。盛り上がってラグビーという素晴らしい競技が日本でもっと栄えてほしいなと思います。

川合 見てもらうことで魅力を知ってもらえる機会が増えればラグーマンとして嬉しいですね。例えばスクラムを組んでいるときありますよね。あの時、実はレフリーも見えていないんですよ。ラグビーは見られてなくてもルールを守るという大前提のもとに成り立っているのです。

石川 確かにラグビー未経験の1年生がプレー中に踏まれたりとかはないんですか？と聞かれました。事故で当たったりすることはありますが、故意は全くないですね。

川合 ルール違反をしないというのがラグビー。わざと転ぶとかはないです。負けるときは潔く負ける(笑)そういうのをテレビで見てもうえる機会があればいいですね。

玉川の後輩に

川合 僕自身が感じているのですが、勝つにはいろんな体格の選手が必要なんですよ。ずんぐりむっくりしている人も必要だし、背の高い選手、足が速い人も必要だし、自分と見た目が若



Profile

川合 レオさん 文学部教育学科1997年卒

(公財)日本ラグビーフットボール協会/一般社団法人ラグビーパークジャパン代表理事
大学卒業後、NECグリーンロケッツ所属。日本代表となる引退後は様々な地域や学校で普及活動に携わる

石川 悠太さん 高等部2015年卒

小学部から玉川。高校1年生の3月に右ひざの前十字じん帯断裂し、ケガで出場できない時期、自分でやれることをやってみようかと少し得意だった勉強に取り組み東大に進学。東大ラグビー部主将を務める

山本 凱さん 小学部2012年卒

慶應義塾大学経済学部2年 体育会蹴球部
幼稚部、小学部と玉川。U17、U18の日本代表、高校日本代表で活躍

干違ったり、多少考え方の違う人たちと一つになって物事を成し遂げるというのがラグビーの魅力の一つでもあるので、そういう意味では多様性を学んでほしいなと思います。ラグビーを通してグローバル、ボーダレスな感じで、誰とでもフランクに仲良くなれるようなことを学んでもらえたらいいなと思います。

石川 ラグビーは15人もいるスポーツなんですよ。球技のなかでは多いほうだと思います。その15人とどう協力してやっていくのかということを考えていくと、自分のやりたいことだけができるわけじゃないですし、相手の気持ちを汲むといった部分も大事なスポーツだと思っています。15人もいますが、一人でもさぼると結構負けちゃうスポーツです。責任感という言葉がよく使われますが、責任感を持つのに最適なスポーツだと思っています。信頼感と絆を深めるスポーツだと思うので、そういったところを学んでほしいなと思っています。

山本 どんな時でも楽しんでやるのが大事だと思います。例えば筋トレをするときとかも僕は結構楽しみながらやっています。チームの練習とかもきついときもありますが、それよりラグビーをやって上手くなるという楽しみで成長できると思うので、それを忘れないで日々、楽しんでチャレンジしながら練習すればと思います。

3人の話を聞いてラグビー部が学園創立早々に創部が認められたのは、ルールを守り、それぞれの役割を果たし、信頼して物事を成し得る競技であることを、創立者國芳先生がご存じだったからではないかと思いました。

毎年開かれる「ラグビー祭」はプログラムを工夫し、交流を深めながらK-12の生徒から大学生、卒業生一同に集い楽しめる内容となっています。

今年も早くも夏日となった5月25日(土)に記念グラウンドで開催され、選手の家族も参加して先輩から後輩に玉川のラグビー精神が引き継がれる一日でした。